

「日本学校教育相談学会中四国ブロック研修会」報告 広島子どもの心支援ネットワーク第71回研修会

- 期日：2022年11月19日（土）13：30～17：30
- 場所：対面・オンラインハイブリッド開催
- 対面会場：TKP 広島本通りカンファレンスセンター
- オンライン：Zoom
- テーマ：シンポジウム「さまざまな場からの不登校支援」
- 内容：

学校に留まらない多様な教育関係機関における不登校支援の取り組み発表を通じて、不登校になってしまった子どもたちの「発達を支持する」支援とはどのようなものなのかを考える。

パネリスト

茨木泰丈先生（東京大志学園）

クラーク記念国際高等学校広島キャンパスの皆様さん

阿久津遊先生（NPO 法人カタリバ roomK）

瀬川知孝先生（NPO 法人カタリバ roomK）

指定討論・コメント

栗原慎二先生（広島大学大学院）

司会

神垣幸一先生（広島市公立中学校ふれあいひろば担当教諭）

◇ 東京大志学園・クラーク国際高校の取り組み

クラーク国際高校の高校生による実践発表と、茨木先生によるインタビューという形式で、取り組みの発表が行われた。2人の高校生の発表やインタビューに対する応答を通じて、感じられたことは…

- ✓ 不登校時には、登校を前提とした関わりが辛く、ゆっくり見守って欲しかった。
- ✓ クラーク高校では、登校するのが当たり前、オンラインより対面といった考えがなく、教師も仲間も学校に来ること自体を評価する雰囲気大きな支えとなった。
- ✓ 「逃げたい時には逃げていい」が認められる雰囲気があり、長期間の欠席後も安心できた。

とてもしっかりとした様子の2人で、発表も立派なものだった。この2人の高校生を見ていて、「なぜ、この子達は不登校になったのか？」ではなく、「この子達を不登校にってしまう学校はどうなっているのか？」というように考えざるを得ない。

◇ カタリバ roomK の取り組み

カタリバは、NPO 法人として、様々な境遇に置かれた子どもの支援に取り組んでいる。居場所支援や学習支援を中心に、「誰一人取り残さない」、「不学習にしない」をキーワードに活動している。

roomK は、カタリバが行うオンラインを中心とした不登校支援で、不登校支援の選択肢を増やすことや、個別の子どもの状況に応じた支援を届けることを目的に行っている。

メンターが子どもに対する「伴奏支援」を行い、支援計画コーディネーターが保護者とともに支援計画

を立てて、共に支援を進めていく。

基本的には、自治体と連携して支援につなげていく形で行っており、所属する学校とも連携を行い、校長からの出席認定を目指して進めている。

◇ 生徒指導提要はどうなったか？

すでに発表となっている「生徒指導提要案」をもとに、これからの生徒指導・教育相談の方向性について、栗原先生から説明が行われた。以下にポイントをまとめた。

✓ 2軸3類4層の支援を重層的に展開

2軸：生徒指導を課題性と時間の2軸でとらえ、特に、問題が発生してからの「リアクティブ」な指導以上に、未然防止を重視した「プロアクティブ」な指導が求められる。

3類：生徒指導を「発達支持」・「課題予防」・「困難課題対応」の3類で捉え、特に、子ども一人ひとりの発達を促す「発達支持的生徒指導」を、学校全体で計画的に進めることが求められる。

4層：上記の3類のうち、課題予防的生徒指導を、「未然防止」と「早期発見」に細分し、4層でとらえる。早期発見ではすでに問題が発生しており、本当に意味での予防とはいえないことから、未然防止の必要性を強調している。

✓ チーム支援

「機動連携型」、「校内連携型」、「ネットワーク型」の3つの型のチーム支援が求められる。特に、子どもの支援のゴールを達成するために、学校だけがリソースではないという視点に立ち、フリースクールや放課後デイサービス、オンライン支援など多様な機関とネットワークを組んで支援することが求められる。

✓ アセスメントの重要性

プロアクティブな支援を実現するためには、子どもの現状についての正しいアセスメント（見立て）は必須である。正しい子ども理解に基づく適切なプロアクティブな支援が求められる。

✓ 教育相談コーディネーターの役割

教育相談コーディネーターの役割は重要である。生徒指導の構造や発達支持や未然防止のための理論と実践を理解し、校内にとどまらず医療・心理・福祉、さらには様々な民間の機関なども活用した「ネットワーク型支援」まで視野に入れた生徒指導・教育相談をリードする役割が求められる。

◇ まとめ

今回の研修会では、様々な形の不登校支援を考えることを通じて、これからの学校の果たすべき役割が浮き彫りになった。

一つは、不登校やその他の問題や課題を表面化させない、「プロアクティブな生徒指導」の重要性である。それは、感情理解やソーシャルスキル、コミュニケーション能力といった子どもたちの発達を促すもの（発達支持）から、子ども同士のつながりの力で子どもを育てるという発想（課題予防）に立った、ピア・サポートや協同学習などを通じた支え合いの風土を学校に醸成させることである。

もう一つは、子どもの成長を支援することは学校にしか果たせないものではなく、外部の様々な人や機関がリソースになるのだということを理解し、ネットワークを組み機動的に機能するチームを作ることである。

不登校という、今日の学校現場における大きな大きな課題に対しいかに取り組んでいけばいいのか？この問いに対する答えを考え、議論することができた良い研修会になった。